

新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ
ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第1日

ワルキューレ

"Der Ring des Nibelungen" Erster Tag

Die Walküre

2021 年 3 月 11 日(木)~23 日(火)

会場:新国立劇場オペラパレス 2021 年 2 月 13 日(土)前売開始



2016 年公演より

兄妹の禁断の悲恋、そして父娘の永遠の別れ…ワーグナーが描く“終わりなき愛の葛藤”の物語

超大作「ニーベルングの指環」四部作中の最人気作にして最も感動的な『ワルキューレ』。禁断の愛、父娘の決別…哀切に満ちた“終わりなき愛の葛藤”の物語を、甘美で叙情的な音楽がドラマティックに描く、胸揺さぶる感動作！

明快でかつ哲学に満ちた美しい舞台と反響を呼んだ、巨匠ゲッツ・フリードリヒの「ニーベルングの指環」から、最もドラマティックな『ワルキューレ』をお届けします。

大野和士指揮のもと、国際水準のワーグナー歌いが集結

予定していた飯守泰次郎の降板を受け、大野和士オペラ芸術監督自らがオペラパレスのオーケストラピットに（最終公演は新国立劇場音楽チーフ・城谷正博が指揮）。大野のもと、ワーグナー日本を代表するワーグナー歌いの面々が入魂の演奏を繰り広げます。

* 指揮を予定していた飯守泰次郎は、昨年 12 月に手術を受けたため、本作品の規模を考慮し、現在の体調での指揮は困難であるとの判断から降板することとなりました。代わって、11 日・14 日・17 日・20 日公演は大野和士、23 日は城谷正博が指揮をいたします。

* 招聘キャストは新型コロナウイルス感染症に係る入国制限により出演が不可能となったため、出演者を変更して上演いたします。

* 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

* 本公演では、オーケストラピット内の間隔を確保するため、アルフォンス・アッバスによる管弦楽縮小版による演奏を予定しております。

< 資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ >

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel: 03-5352-5733 / Fax: 03-5352-5709 / E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

甘美でドラマティック、「ニーベルングの指環」四部作中最も感動的な『ワルキューレ』

『ワルキューレ』は「指環」全4部作の中で最も人気が高く、単独で上演される機会も多い作品で、ジークムントと双子の妹ジークリンデの禁断の愛、神々の長ヴォータンと愛娘ブリュンヒルデの永遠の別れなど、哀切に満ちた物語が甘美な音楽でドラマティックに描かれます。「ワルキューレの騎行」をはじめ、ジークムントの「冬の嵐は過ぎ去り」、「ヴォータンの告別」などはコンサートで独立して演奏されることも多い有名曲です。新国立劇場で2015年からの3年間をかけて上演し、明快でかつ哲学に満ちた美しい舞台と反響を呼んだ巨匠ゲッツ・フリードリヒの「指環」、中でも最もドラマティックな『ワルキューレ』は、「指環」のエッセンスが最もストレートに伝わるロダクションです。



大野和士指揮、国際水準のキャスト。現在望みうる最高のメンバーによる上演

指揮台には大野和士(最終公演は城谷正博)が立ち、大野のもと、ワーグナー歌いとして世界第一線で躍進中のミハエル・クプファー＝ラデツキー、日本が生んだ世界的ワーグナー歌手藤村実穂子、そして日本屈指のワーグナー歌手の地位を確かにした池田香織、ドラマティックな声と叙情的な表現力を持つ小林厚子ら日本屈指のワーグナー歌手達が入魂の演奏を繰り広げます。

■ワーグナーの楽劇「ニーベルングの指環」

「ニーベルングの指環」は、序夜『ラインの黄金』、第1日『ワルキューレ』、第2日『ジークフリート』、第3日『神々の黄昏』から成る壮大な四部作。「リング」の名で親しまれ、演奏時間はトータルでおよそ15時間(休憩含まず)を要する空前の大作。

ワーグナーが『さまよえるオランダ人』『タンホイザー』『ローエングリン』の創作を経て、まさに脂がのった頃の作品で、他の作品同様、台本もワーグナー自身が手掛けた。物語は中世ドイツの叙事詩「ニーベルングの歌」を題材に北欧神話や作曲者のアイディアが盛り込まれ、「指環」をめぐる神々と様々な種族との争い、破滅、そして没落していく歴史が壮大に描かれる。幻想的で崇高な雰囲気の中にも、登場するキャラクターには我々人間の愛や欲情、権力、醜悪が巧みに投影されている。

ワーグナーは、特定の想念、人物、事物、状況などに決まった旋律(主題)をあてはめて作曲している。これは「ライトモティーフ(Leitmotiv/示導動機)」と言われる作曲の技法で、ワーグナーはこれを体系化して発展させ、壮大で複雑な展開の「指環」では特に徹底して駆使し、四部作全体に張り巡らせた。

途中およそ7年の中断期間があったにせよ、台本着手から作曲完成まで26年もの歳月を要したことから、作品への力のいれようがわかる。ワーグナーはこの作品のために、理想の形で上演するための劇場、パイロイト祝祭劇場をつくってしまったほど。自身の意思に反して『ラインの黄金』と『ワルキューレ』は、当時のバイエルン王、ルートヴィヒ二世に単独上演されてしまったものの、1876年8月、四部作一挙上演のための音楽祭「パイロイト音楽祭」で、その願いは叶えられた。

<「ワルキューレ」あらすじ>

【第1幕】戦いの末、追手から逃げるジークムントは、森の中の家に入り倒れ込む。ジークリンデは驚きながらも介抱する。帰宅した夫フンディングは、男の顔が妻と瓜ふたつなことを訝る。ジークムントは身の上を語る。母は殺され、双子の妹とは生き別れ、父も行方不明になった、と。ジークムントこそ今追っていた敵だと気づいたフンディングは、今晚は客として迎え入れるが明朝は決闘だと言い放って部屋を離れる。家のトネリコの木に刺さる剣。誰も引き抜けなかったが、ジークムントは難なく引き抜き、これこそ父が約束した霊剣ノートゥングだと悟る。2人は生き別れた双子の兄妹だと分かり、運命的な恋に落ち、家を出る。

【第2幕】ジークムントとジークリンデは神ヴォータンと人間の間の子であり、ヴォータンは、息子とフンディングの決闘で息子を勝たせるつもりでいた。しかし結婚の神・妻フリッカに双子の結婚を咎められ、息子の勝利を取り上げることにする。その役目をヴォータンの最愛の娘でワルキューレ(戦乙女)の1人ブリュンヒルデに任せる。ブリュンヒルデはジークムントに死の定めを伝えるが、彼の思いに心打たれ、助けることを決意。しかしジークムントの持つ霊剣ノートゥングはヴォータンの力で粉々になり、ジークムントはフンディングに刺されて死ぬ。ブリュンヒルデはジークリンデと逃げる。

【第3幕】亡くなった英雄の魂を運ぶワルキューレたちが岩山に集まっている。そこにジークリンデを連れたいブリュンヒルデが、助けを求めにやって来る。ブリュンヒルデは一番速い馬を用意し、ジークムントとの新しい命を宿したジークリンデを森へ逃がす。命に背いたブリュンヒルデに怒るヴォータンは、彼女の力を奪い、眠りに閉じ込め、目覚めさせた男の妻になるという厳罰を与える。ブリュンヒルデは、炎に囲まれた岩山で深い眠りに落ちる。



＜主要キャスト・スタッフプロフィール＞

【指揮】(11日・14日・17日・20日)大野和士

ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨンを特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』を指揮しており、今年7月には『カルメン』も指揮する予定。



【指揮】(23日)城谷正博

JOYA Masahiro

東京芸術大学作曲科、同大学大学院指揮科修了。安宅賞受賞。東京フィル、神奈川フィル、仙台フィル、読売日本交響楽団などのオーケストラを指揮。オペラ指揮者としては2000年『フィガロの結婚』でデビュー以来、多くの作品を指揮。特にまつもと市民オペラ『魔笛』(第10回佐川吉男音楽賞受賞)では絶賛を博す。古典から近現代、現代日本オペラまで幅広いレパートリーを持ち、特にワーグナーをその中心に据えている。新国立劇場では音楽スタッフとして1998年以来数多くのプロダクションに参加しており、現在は音楽チーフとして同劇場の全ての演目に携わっている。新国立劇場公演では、高校生のためのオペラ鑑賞教室『椿姫』『愛の妙薬』『夕鶴』『蝶々夫人』『トスカ』の指揮を務め、『さまよえるオランダ人』(演奏会形式)、『ジークフリート』ハイライトコンサートではアレンジ及び指揮を担当している。



【演出】ゲッツ・フリードリヒ

Götz FRIEDRICH

1930年ドイツのナウムブルク生まれ。ワイマールのドイツ演劇学院卒業後、旧東ドイツ時代のベルリン・コーミッシェ・オーパーで名演出家のワルター・フェルゼンシュタインの助手を務める。72年のパイロイト音楽祭で『タンホイザー』の演出を手がけて注目を集め、81年にはベルリン・ドイツ・オペラの総監督に就任。以後、斬新なプロダクションを次々に展開して同オペラハウスを西ドイツの文化をリードする象徴として育て上げた。その演出は没後にも脈々と受け継がれ、ベルリン・ドイツ・オペラにて上演されている。主な作品として、『ニーベルングの指環』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『タンホイザー』『さまよえるオランダ人』『ローエングリン』『パルジファル』『ばらの騎士』『アラベッラ』『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』『アイダ』『ファルスタッフ』『仮面舞踏会』『椿姫』『フィガロの結婚』『エウゲニ・オネーギン』『ヴォツェック』などがあり、新国立劇場においては、2000年11月に『青ひげ公の城』が、2015年から2017年に『ニーベルングの指環』4部作が上演された。2000年12月逝去。



【フンディング】長谷川 顕

HASEGAWA Akira

国立音楽大学卒業。二期会合唱団に15年間に在籍し、年間40本に及ぶオペラ公演や多数の演奏会に出演。ソリストとして『魔笛』『セビリアの理髪師』『ワルキューレ』『リゴレット』『ラ・ボエーム』などに出演。新国立劇場では『ラインの黄金』『ファウスト』『神々の黄昏』『ハーゲン』『フィデリオ』『ロッコ』『リゴレット』『スパラフチーレ』『ドン・ジョヴァンニ』『騎士長』『魔笛』『ザラストロ』『カルメン』『スニガ』『ばらの騎士』警部、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』『ボンゾ』など、数多く出演。二期会会員。



【ヴォータン】ミハエル・クプファー＝ラデツキー

Michael Kupfer-RADECKY

マリンスキー劇場、ハンガリー国立歌劇場、ポリショイ劇場、ハンブルク州立歌劇場、チロル音楽祭などで『ばらの騎士』『ファエニナル』『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータンなどに出演。クラーゲンフルト歌劇場『サロメ』ヨハナーンで大成功を収め、同役でスウェーデン王立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどへ出演。17年にはパリ・オペラ座とミラノ・スカラ座へ『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・ザックスでデビュー。近年では、オルデンブルク歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、パーゼル歌劇場『エレクトラ』オレスト、バイエルン州立歌劇場『ニュルンベルクのマイスタージンガー』フリッツ・コートナー、『フィデリオ』『ドン・ピツァロ』『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、ハノーファー歌劇場『エディプス王』クレオン、トリノ王立歌劇場『ヴィオランタ』(コルンゴルト作曲)シモーネ・トロヴァイに出演。19年からハノーファー歌劇場専属歌手となり、今シーズンは同劇場『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナルに出演。今年1月には大阪国際フェスティバル・関西フィルハーモニー管弦楽団「ワーグナー特別演奏会」に出演した。新国立劇場へは、18年『フィデリオ』『ドン・ピツァロ』に出演して以来の登場となる。



【ジークリンデ】小林厚子**KOBAYASHI Atsuko**

東京藝術大学大学院オペラ科修了。文化庁在外派遣によりイタリアにて研修。藤原歌劇団にデビュー後、同歌劇団『蝶々夫人』でタイトルロールデビュー。首都オペラ『フランチェスカ・ダ・リミニ』フランチェスカ、『マクベス』マクベス夫人、西本智実プロデュース『蝶々夫人』、フィオーレオペラ『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、藤原歌劇団『ナヴァラの娘』アニタなどに出演している。イタリアのトラエッタ・オペラ・フェスティバルではトラエッタ劇場、クルチ劇場の『蝶々夫人』に出演を重ねる。新国立劇場では高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』『トスカ』でタイトルロールに出演。18/19シーズン『トスカ』では、鑑賞教室公演翌日の千秋楽公演に急遽出演し、シーズンの千秋楽を見事に飾った。また、『アイーダ』タイトルロール、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナ、『オテロ』デズデモナー、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『イエヌーファ』タイトルロール、『タンホイザー』エリーザベトなどドラマティックソプラノの難役でカヴァーを務め、公演の成功に貢献している。藤原歌劇団団員。

**【ブリュンヒルデ】池田香織****IKEDA Kaori**

慶應義塾大学法学部卒業。二期会オペラスタジオ修了。定評のある『ばらの騎士』オクタヴィアンなどのズボン役のほか、ワーグナーを得意とし、最近では東京二期会『トリスタンとイゾルデ』イゾルデで好評を博す。2017年～2020年のびわ湖ホール「ニーベルングの指環」では、『ラインの黄金』エルダ、『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデに出演、ワーグナー歌手としての地位を確立した。オーケストラとの共演も多く、『第九』をはじめ宗教曲などでも活躍。新国立劇場では『愛怨』影巳、『ラインの黄金』ヴェルグンデ、『神々の黄昏』ヴェルグンデ、第二のノルン、『魔笛』侍女Ⅱ、『ルサルカ』第二の森の精、『鹿鳴館』坂崎男爵夫人定子、『パルジファル』アルトソロ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』スズキなどに出演。二期会会員。

**【フリッカ】藤村実穂子****FUJIMURA Mihoko**

東京藝術大学卒業、同大学院修了。ミュンヘン音楽大学大学院修了。2002年に主役級としては日本人で初めてパイロイト音楽祭にデビュー、以来9年連続出演する。ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、バイエルン州立歌劇場、フィレンツェ歌劇場などに出演し、ティーレマン、アバド、メータ、エッシェンバッハ、ハイティンク、シャイー等の著名指揮者や、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロンドンフィル、パリ管、バイエルン放送響、ゲヴァントハウス管などと共演。また、ドミンゴ、パッパーノとのスタジオ録音による『トリスタンとイゾルデ』で注目を浴びる。20年3月にはメトロポリタン歌劇場へ『さまよえるオランダ人』マリーでデビュー。出光音楽賞、芸術選奨文部科学大臣賞、エクソンモービル音楽賞、サントリ音楽賞の各賞を受賞、紫綬褒章受章。新国立劇場には、01年～02年「ニーベルングの指環」フリッカ、ヴァルトラウテ、01年『ドン・カルロ』エボリ公女、06年『イドメネオ』イダマンテ、19年『ウェルテル』シャルロットに出演している。



新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ
 R.ワーグナー 楽劇「ニーベルングの指環」第1日 ワルキューレ
 Richard WAGNER/ "Der Ring des Nibelungen" Erster Tag Die Walküre
 全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2021年3月11日(木)16:30／14日(日)14:00／17日(水)16:30／20日(土・祝)14:00／23日(火)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:27,500円・A:22,000円・B:15,400円・C:8,800円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】 2021年2月13日(土)

※チケット発売日は当初発表から変更となりました。※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。※本公演では、オーケストラピット内の間隔を確保するため、アルフォンス・アッパスによる管弦楽縮小版による演奏を予定しております。※出演者につきましては、当初発表通りの出演を予定しております。変更が生じた際には、最新情報を新国立劇場ウェブサイト等で随時お知らせ致しますので、何卒ご了承ください。

指揮	大野和士 (11日・14日・17日・20日)	ジークムント	未定
Conductor	ONO Kazushi	Siegmond	TBA
指揮	城谷正博 (23日)	フンディング	長谷川 顕
Conductor	JOYA Masahiro	Hunding	HASEGAWA Akira
演出	ゲッツ・フリードリヒ	ヴォータン	ミハエル・クプファー＝ラデツキー
Production	Götz FRIEDRICH	Wotan	Michael Kupfer-RADECKY
美術・衣裳	ゴットフリート・ピルツ	ジークリンデ	小林厚子
Set and Costume Design	Gottfried PILZ	Sieglinde	KOBAYASHI Atsuko
照明	キンモ・ルスケラ	ブリュンヒルデ	池田香織
Lighting Design	Kimmo RUSKELA	Brünnhilde	IKEDA Kaori
再演演出	澤田康子	フリッカ	藤村実穂子
Revival Director	SAWADA Yasuko	Fricka	FUJIMURA Mihoko
舞台監督	村田健輔	ゲルヒルデ	佐藤路子
Stage Manager	MURATA Kensuke	Gerhilde	SATO Michiko
		オルトリンデ	増田のり子
		Ortlinde	MASUDA Noriko
		ヴァルトラウテ	増田弥生
		Waltraute	MASUDA Yayoi
		シュヴェルトライテ	中島郁子
		Schwertleite	NAKAJIMA Ikuko
		ヘルムヴィーゲ	平井香織
		Helmwige	HIRAI Kaori
		ジークルーネ	小泉詠子
		Siegrune	KOIZUMI Eiko
		グリムゲルデ	金子美香
		Grimgerde	KANEKO Mika
		ロスヴァイセ	田村由貴絵
		Rosswisse	TAMURA Yukie

管弦楽 東京交響楽団 || Orchestra | Tokyo Symphony Orchestra |

芸術監督 大野和士 || Artistic Director | ONO Kazushi |

A Production of the Finnish National Opera

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/walkure/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)
 新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 乙席 1,650円: 公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演は、レパトリー演目です。宣材として過去の上演の舞台写真をご使用いただけます。



【1】



【2】



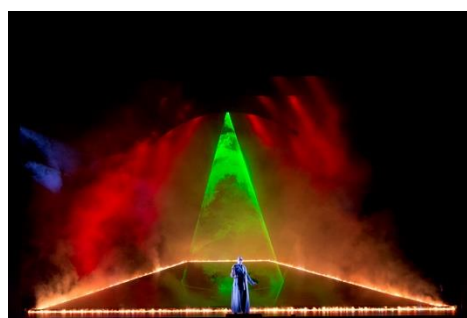
【3】



【4】



【5】



【6】